

親子のスキンシップが一番の調味料 親子食育教室「親子クッキング」

11月12日、親子食育教室「親子クッキング」が中央公民館で開催されました。教室には、第二児童館を利用する親子30人が参加。ヘルスメイト白石の皆さんの説明を受けながら、トマトライスやクレープ、ヨーグルトサラダなどを親子でふれあいながら作りました。

この教室は、第二児童館と親の会が共催で行い、今年で2回目。親の会会長の小川敬子さんは、「家ではなかなか一緒にできないこと。子どもたちが率先して料理をしてくれて、いい機会になりました」と、親子のスキンシップを楽しんでいました。



▲親子・友達で楽しくクレープ作り

食文化の違いは交流のスパイス 国際料理講習会



▲料理を通して交流を深めました

11月14日、県内外国人との交流を目的とした「国際料理講習会」が中央公民館で行われました。今回の講師は、マレーシア出身のアイリドザ・ビンティ・アブルーラ・マンソールさんとそのご主人。ナシ・トマトというチキンライスやマレーシア風チキンカレーなど3品に挑戦しました。参加者の皆さんは、日本米とマレーシア米の水加減の違いに驚いたり、独特の調理法を楽しんだりしながら料理を完成させました。終了後は出来上がったマレーシア料理と、こづゆ(会津地方の郷土料理)などの日本料理を全員で味わいながら、交流を深めていました。

科学っておもしろい!

でんじろう直伝! おもしろサイエンスショー

11月25日、「でんじろう直伝! おもしろサイエンスショー」が中央公民館で開催され、市内小学校の児童など約400人が科学のおもしろさに触れました。ゴムの伸び縮みによる熱変化を利用した「風船エアコン」や、「ペーパーブーメラン」を使った空気抵抗実験、風船を使った静電気実験など、米村でんじろうサイエンスプロダクションのスタッフが次々と繰り出す不思議実験に参加者は釘付け。スタッフのチャーリー西村さんは、「科学は夢を叶えてくれる素晴らしいもの。ぜひ、自分でもやってみて、驚きや感動を見つけてほしい」と話しました。



▲児童も実験に参加! 不思議な現象に笑顔があふれていました

次は僕たちの番

第25回東北ジュニア新体操選手権大会



▲ジュニア男子団体(小学生)に出場したキューブ新体操教室

11月25日から27日の3日間、東北地区の新体操選手が集まった「第25回東北ジュニア新体操選手権大会」がホワイトキューブで開催されました。小学1年生から高校生までが参加した本大会。高校生の部には、全国屈指の強豪校・青森山田高校も出場し、全国レベルの演技を披露しました。

キューブ新体操教室は男女ともに団体・個人競技に出場。男子団体(ジュニア)には、10月の全日本ジュニアを経験した佐藤3兄弟・高橋3兄弟がエントリーし、三つ子同士ならではの息の合った演技を見せてくれました。

わが家の「家庭の日」実践発表 白石市青少年健全育成市民のつどい

11月20日、「白石市青少年健全育成市民のつどい」が中央公民館で開催されました。越河小・福岡小・白川小の親子が、わが家の「家庭の日」の過ごし方などを発表したほか、家庭の日絵画ポスターの表彰式や市内6中学校の生徒が「私の主張」を発表しました。越河小の皆さんは、家庭の日の過ごし方をランキング形式で紹介。第1位に「家族みんなで料理」が輝いたこと、「家庭の日に限らず、親子で共に活動したい」などと発表しました。市では、平成21年7月に「毎月第3日曜日を家庭の日」と定め、青少年の健全育成を図っています。



▲越河小PTAでまとめたことを3家族が一緒になって発表

支え合いの大切さをみんなで考える 地域支え合い体制づくり事業講演会



▲支え合いの大切さを落語を通して学びました

11月22日、「地域支え合い体制づくり事業講演会」が中央公民館で開催しました。高齢者世帯など支援を必要とする方々が安心して生活できるよう、日常的な支え合いの大切さをみんなで考え、地域で支え合う活動を推進する人材を育成する最初の事業として、落語家の林家染二さんが講演を行いました。林家さんは、～近隣意識に根ざす福祉の広がり～「手を伸ばせばぬくもりが」と題して講演。「家でも地域でもみんなであひざつをしましょう」と話し、家族の大切さを落語「子は鎧」で披露。会場に集まった約160人の心を涙と笑いでつかみしました。

地域の人たちが集まるふれあいの場 第8回寿山自治会館まつり

11月19日・20日の両日、「第8回寿山自治会館まつり」が寿山自治会館で開催されました。会場では、「寿山自治会友の会」の皆さんが自慢の水彩画や写真などを展示したり、地域の人たちが一緒になって竹トンボなどの竹細工を作ったりしました。また、お昼には、友の会の皆さんが腕をふるったいも煮汁などを食べながら、交流を深めました。参加者は、「楽しい時間を過ごせました」と笑顔で話していました。友の会は、外出しづらい高齢者が増えないようにと、同会館で毎月第3日曜日にカラオケや食事を開くなどの活動も行っています。



▲芋煮を食べた後は竹とんぼで遊びました

世代や障がいの有無を超えた交流 ダンスパラダイス2011 in しろいし



▲ディスココンテスト受賞者と審査員の皆さん

12月3日、「ダンスパラダイス2011 in しろいし」(主催:宮城県障害者福祉センター)がホワイトキューブで開催されました。この催しは、世代や障がいの有無を超えた新たな出会いや楽しい交流をと、昭和58年から開催されているもので、本市での開催は初めて。この日は、県内から障がいがある方やその家族、ボランティア、住民の皆さんなど約100人が参加。参加者は思い思いの衣装で、ディスコキング賞やクイーン賞、ベストドレス賞などの各賞を目指し、音楽に合わせてダンスを披露。会場は熱気に満ちて、笑顔と歓声に包まれていました。